外国語活動における実践的指導力向上を目指して

義務教育研修課　主任指導主事　山下　勝幸
高校教育研修課　主任指導主事　松本　久永
指導主事　足立　禅啓
情報教育研修課　　指導主事　廣石　修基

はじめに

平成23年度に現行小学校学習指導要領が全面実施され、外国語活動が５・６年生で必修化された。それに伴い、文部科学省から外国語活動教材『Hi, friends!』が配布され、コミュニケーション能力の素地を養うことを目的とした授業が、全ての小学校で行われるようになった。平成32年度には新学習指導要領により、小学校５・６年生において外国語が教科化され、年間70時間程度の授業時数が計画されている。また、外国語活動が小学校３・４年生から導入され、年間35時間程度の授業時数が計画されている。このことから、今後、より多くの小学校教員が外国語の指導に関わることが予想され、外国語教育における実践的指導力の向上が求められる。

文部科学省が行った調査によると、「英語の授業が好きである」と回答した児童が約７割、また、中学校教員の約８割が「外国語活動を行うことで中１の生徒に指導の成果や変容がとても見られた」と回答するなど、一定の成果が見られる一方で、小学校教員の半数以上が外国語活動における指導力、特に教材の開発や準備、指導案の作成方法等についての理解が十分ではないと感じていることなどが課題として挙げられている[1)]。

当所では外国語活動の指導に自信が持てない教員を支援するために、平成 26 年度に外国語活動の単元を構成するためのコンテンツ（次ページにイメージ図掲載、以下、「当所コンテンツ」という）[2)]を作成し、１時間ごとの授業のねらいを明確にすることができるようにした。「当所コンテンツ」を活用して単元を構成することで、「単元のつながりが理解できた」「各時間のねらいが明確になった」などの成果が見られたが、「外国語活動の授業を受けたことがないので、授業イメージがつかめない」「『Hi, friends!』だけで１時間授業するのが難しい」「活動の展開の方法が分からない」などの声も聞かれた。

そこで、外国語活動を担当する教員の実践的指導力を高めるため、単元づくりを支援する「当所コンテンツ」に加えて、授業づくりのモデルを示すこととした。平成27年度は明石市立貴崎小学校を協力校として、教員が具体的に１時間の授業構成をイメージし、授業づくりの視点を理解することに重点を置いて、第５学年で授業実践を行った。

１　協力校の現状と課題把握

教員が単独で外国語活動の指導を行う上での不安や負担感等の声を聞き取り、現状と課題を把握した。

(1)　実態

≪授業≫

・総括的な指導は担任が行い、活動はALTが中心となっている

・ALTが常駐ではないため、実施できない週がある

≪研修≫

・学習指導要領改訂時に、伝達的な校内研修を行った

・英語が得意な教員が行う校外での公開授業を参観した

(2)　教員の声

・自身の英語力（特に発音）に自信がないため、自分が教えることで児童は間違った英語を身に付けるこ

とになるのではないか

・日本人教師が単独で行う外国語活動のイメージがつかめない

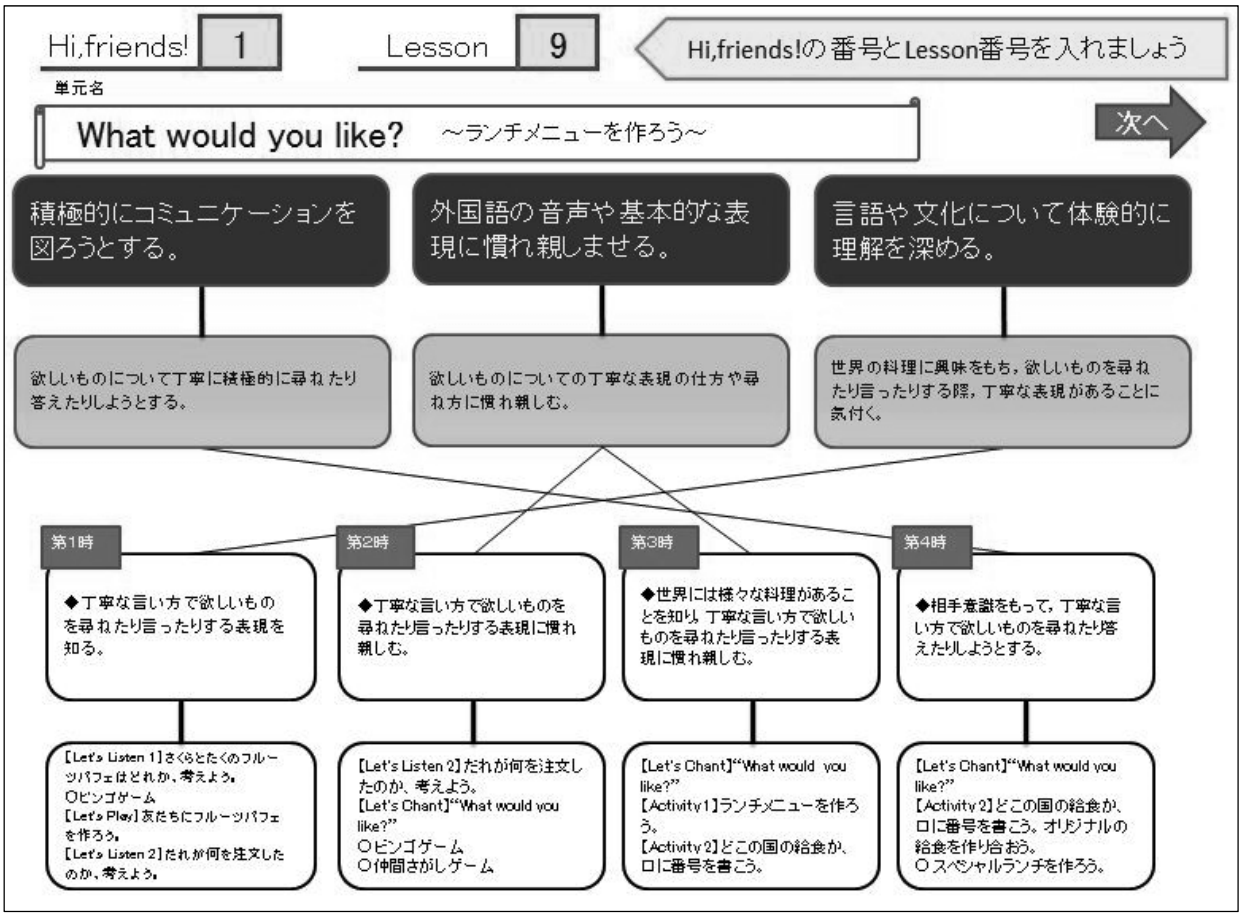
協力校の現状から、担当教員が単元の見通しを持って授業を展開していくために、具体的な手順を示すことが必要であると考えた。そこで、単元計画の立て方から授業づくりまでのプロセスを提示し、各時間の具体的なプランを示すこととした。また、取り扱う単元については、担当教員と協議し、『Hi, friends! 1』の Lesson９とした。Lesson９は既習事項を取り入れながら多様な活動を設定でき、外国語活動の標準的な授業を展開できる単元である。

２　ねらいを明確にした授業づくりまでのプロセス

(1)　単元計画の立て方

授業づくりでは、まず単元の見通しを持つ必要がある。そこで、文部科学省WEB内の「『Hi, friends!』関連資料」に掲載されている本単元の計画・目標・主な活動を、「当所コンテンツ」を活用して整理した。目標と活動内容は『Hi, friends!』全体で構造化されているものを踏襲することで担当教員の負担軽減を図った。

なお、「当所コンテンツ」(http://www.hyogo-c.ed.jp/kenshusho/cn39/research.htmlからダウンロード）内の手順に従い各自が必要事項を入力することで、下図のように整理されたものを印刷することができる。



「当所コンテンツ」を活用して作成した単元構成図

(2)　授業づくり

「当所コンテンツ」を活用して作成した上図を基に、以下の点を踏まえ授業案を作成し、１単元４時間の授業を担当教員が実践した。

ア　つながりを意識した学習活動

『Hi, friends!』は、既習事項を新出の語彙や表現に結び付けて学ぶ仕組みとなっているが、実際の授業においてはあまり実践されていない現状がある。しかし、授業の初めに既習事項も想起することで学びのつながりを意識し、知識や技能の定着を図ることができる。

本授業実践においては、全ての授業の導入に既習事項の確認を取り入れた。第１時では、新出表現に関連する既習事項「I like apples. (Lesson 4)」で学んだ語彙と、“What do you want?” “I want ～.” (Lesson 6)」等の表現を振り返ることで、“I would like ～.”という新出表現につなげた。児童は知っているという安心感から大きな声で発音を繰り返し、スムーズな導入につながった。

第２時以降は、「前時の復習」を導入として位置付けることで、語彙や表現の定着を図ることができる。

イ　『Hi, friends!』付録教材の活用方法とゲーム等の効果的な挿入

新出語彙や表現に慣れ親しませるために、『Hi, friends!』の巻末に添付されているピクチャーカード等の付録教材や「当所コンテンツ」に収録しているゲーム等の活用について提案した。外国語活動では各単元の中で新出語彙を使っての活動が多くを占める。数種類のゲームを使い分けたり、組み合わせたりすることで児童に新出語彙を体験的に習得させることができる。

第３時においては、「料理メニューカード」を活用した（**本文p.41参照**）。レストランでの会話を想定したロールプレイ（店員と客）を行う際に、カードを受け渡しすることにより自分が注文した料理が店員に伝わっているか、客の注文が聞き取れているかを確認することができる。

また、語彙の定着を図る場面では数種類のゲームを活用した。第３時にはキーワードゲーム（**本文p.41参照**）を活用した。ゲーム形式をとることで、児童は楽しみながら何度も発音を繰り返した。これは教員からの一方通行となりがちなフラッシュ型教材ではなく、児童が主体的に取り組める方法として大変有効であった。

このような付録教材やゲームの活用は児童が意欲的に学習活動に参加する効果があるだけでなく、汎用性が高く、他のLessonでも活用することができる。

ウ　コミュニケーション活動の方法

「コミュニケーション能力の素地を養う」という外国語活動の目標を達成するためには、ペアやグループによるコミュニケーション活動が効果的である。インタビュー活動やロールプレイなど多様なコミュニケーション活動を取り入れることで、児童に「話したり、聞いたりする必然性」を持たせ、活動の幅を広げることができる。

新出語彙を体験的に習得させる場面では、ペアで取り組む活動を取り入れた。時間を区切ってペアを入れ替えるなど、より多くの人とコミュニケーション活動ができるように配慮した。協力校のクラスでは日常的に班活動を中心とした協働的な学習が行われており、活発なインタビュー活動が実施できた。「日本語禁止」という設定であったため、伝わりにくい時はジェスチャーを交えたり、“Once more.”等聞き直す表現を使ったりしている児童も見られた。

また、４時間目には「インターナショナルレストラン」という設定のロールプレイを取り入れた（**本文p.42参照**）。実生活に即した場面を設定することで、学習した表現がより身近なものに感じられ、新出表現の定着だけでなく、『Hi, friends!』では扱っていない“May I help you?”等の表現にも触れさせることができた。

エ　教材の作成と活用方法

(ｱ)　ALTとの連携によるビデオ教材の作成

ALTが学校に常駐していないため、授業を行う際に必ずALTと連携できるとは限らない。そこで、あらかじめ授業で提示したい場面をALTと打ち合わせ、映像として保存しておくことを提案した。このビデオ教材は、よく知っているALTが映像に登場するという演出により、児童の関心を引き付けることができる。

また、何度でも繰り返し視聴できるため、聞き取りが苦手な児童にとって有効な教材となる。

本単元においては、①「フルーツパフェ屋の店員と客の設定でALTと教員によるロールプレイ」と②「ALTの母国の給食についてのインタビュー形式での紹介」の２本を撮影し、授業で活用した。ALTと事前に打合せを行うことで教員の思い描く授業プランに即したビデオ教材が作成できた。映像の内容を理解しようと食い入るように画面を視聴する児童の姿が見られ、ビデオ教材の効果が実感できた。また、今回の実践から、ビデオ教材はタブレット端末を活用することができれば、手軽に撮影や視聴が可能になり、より効果が発揮できると考える。

(ｲ) デジタル教材の活用

『Hi, friends!』にはデジタル教材が付いており、音声、動画等の活用ができる。ロールプレイ等を授業の中に効果的に組み込むことで、様々な活動を行うことができる。

教員が外国語活動を指導する上での大きな不安要素のひとつが、「発音」である。デジタル教材内のコンテンツを活用すれば、収録されているネイティブスピーカーの発音を授業で活用することができる。さらに映像で口の動きまで示してあるため、児童はそれを真似ることができる。発音以外にもチャンツや歌などの多くの教材が収録されており、目的に応じた活用が可能である。本実践では４時間目のロールプレイ実施前に、デジタル教材に収録されているロールプレイを見せることによって、活動のイメージをもたせることができ、児童はスムーズに活動に移ることができた。

３　授業実践を通して（担当教員への事後インタビューより）

(1) 成果

・「当所コンテンツ」を活用することにより、「ねらい」や「流れ」が理解できた

・「授業づくりのための活動カード」を活用することにより、授業構成ができた

・様々な教材の作成方法が分かった

・やってよかった！不安があっても“まずやってみること”ができるようになることへの第一歩となる

教員には「単独で外国語活動の指導をするイメージがつかめない」という不安があったが、各時間のねらい等を一枚のシートに整理したことで単元構成を理解でき、ゴールが明確になった。そのことで常に単元の目標を意識しながら授業を行えた。また、「当所コンテンツ」を基に、各時間の授業の流れをまとめたプランシートを作成したことで、活動を行うために必要な教材等も明確になり、計画的に授業準備を行うことができた。

授業で使用するピクチャーカード等を作成する際には、コンテンツ内のデータを活用することで効率的に作成することができた。また、ALTが登場するビデオ教材は、ALTがいない授業でもネイティブスピーカーの英語を聞くことができる有効な教材となった。

特に大きな不安であった発音については、デジタル教材を活用することで正しい発音に触れさせることができ、担当教員は安心して授業を進めることができた。

担当教員は初めてALTを交えず一人で外国語活動を指導したが、他の教科では味わえないアクティブな空間に戸惑いながらも、児童とともに自身も楽しみながら外国語活動を実践できていた。

今回の研究においては授業実践に向け、協力校の担当教員に授業づくりの手順を提示することで、ひとつずつ不安を解消するように進めていった。このような段階を踏んだ取組が担当教員の前向きな感想につながったと考える。

(2) 課題

・デジタル教材（コンテンツ等）を効果的に活用するための研修が必要と感じた

今回の実践を通して、多くの教員が『Hi, friends!』デジタル教材のコンテンツの活用方法を知らない、

もしくは存在そのものを知らないため、有効な機能を使うことなく活動を終えてしまう場面も見られた。デジタル教材には多様なコンテンツが収録されており、それらを各活動のねらいに応じて活用することで授業が容易に構成できる。担当教員からも、デジタル教材を使った教材作成やコンテンツの使い方に関する研修等を学校全体で行うことで、他の教員の不安感の軽減につなげたいといった感想も聞くことができた。これらのことから当所の講座でもコンテンツを効果的に活用する研修を行う必要性を改めて感じた。

４　教員が行う外国語活動の充実のために

外国語活動の指導を行ったことがない教員が単独で授業を行うためには、独自で具体的な授業プランを作成する必要がある。本研究で明確になった授業プラン作成手順を以下に示す。

⓪　ゴールを意識した１時間ごとのねらいを明確にするために、「当所コンテンツ」を活用して単元の見通しを持ち、単元のまとめで行う活動を設定する。

①　既習の語彙や表現の定着を図りながら、本時とのつながりを意識した導入を設定する。

②　ピクチャーカードやゲームを活用し新出語彙を習得させる。

＊『Hi, friends!』デジタル教材内のコンテンツを活用したピクチャーカードの作成。

＊ゲームや活動の設定（当所コンテンツ内に掲載）。

③　新出表現に気付かせる。

④　新出表現の活用場面を設定する。

＊コミュニケーション活動の内容（ロールプレイ、インタビュー等）や形態（ペア、グループワーク等）をクラスの実情に合わせて設定（当所コンテンツ内に活動例を掲載）。

⑤　本時のまとめ

※第２時以降については、①から始めることになる。

このような手順で授業をイメージし、活動を組み合わせることにより、授業を構成することができる。その際、「授業づくりのための活動カード（**本文 p.40 参照**）」を使用することで具体的なプランシート（**本文 p.39 参照**）を作成することができる。

５　おわりに

授業プラン作りに必要な手順や手立て（次ページ：チャート図）を示すことで、授業を構成しやすくなり、実践的指導力向上に資すると考える。本チャート図に示す手順は汎用性があり、他の単元でも使用することができる。さらに、今回の協力校で撮影したビデオを映像研修資料として活用し、実際の授業場面を映像で示すことで、教員は具体的な授業のイメージを膨らませることができると考える。来年度からの当研修所で実施する初任者研修や外国語活動講座などにおいて、本研究で作成した資料を活用し、教員が外国語活動を行うことができる方策について普及していきたい。

最後に本研究の趣旨を理解し快くご協力いただいた明石市立貴崎小学校の皆様に心よりの謝意を表する。

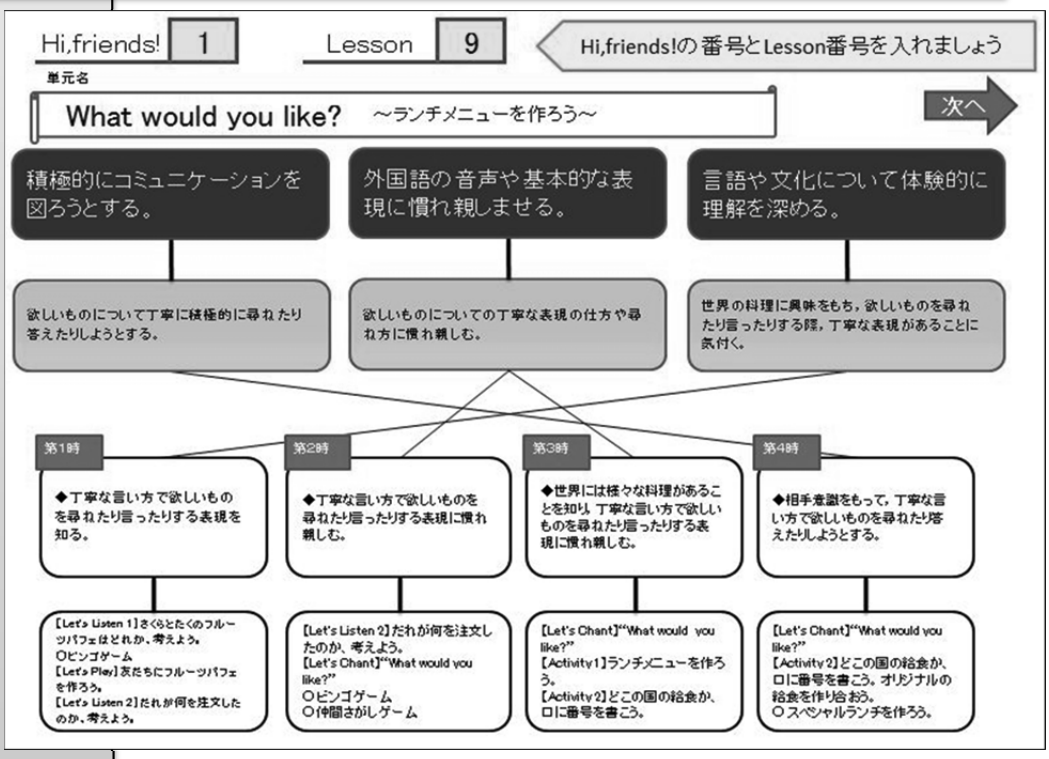
注）

１）英語教育の在り方に関する有識者会議（第３回）（2014.4.13）【資料３－１】「小学校における外国語活動の現状・成果・課題の内容」を整理して示している。

２）山下　勝幸・井上　貴至・松本　久永「外国語活動の指導に関する研究―外国語活動の単元を構成するためのコンテンツの開発―」,『研究紀要　第 125 集』, 兵庫県立教育研修所, 2015

授業プラン作成の手順

⓪「当所コンテンツ（http://www.hyogo-c.ed.jp/kenshusho/cn39/research.html）」を活用して単元の見通しを持ち、単元のまとめで行う活動を設定する。



①既習事項と本時のつながりを意識した導入を設定する。

②新出語彙を習得させる。

- ピクチャーカードの作成（Hi,friends!デジタル教材コンテンツの活用）
- 発音練習で行うゲームの設定（当所コンテンツの活用）等

③新出表現に気付かせる。

- ALT（ビデオ含む）やHi,friends!デジタル教材コンテンツ等の活用

④新出表現を使う場面設定をする。

- コミュニケーション活動の内容や形態（ペア・グループワーク）を、自分のクラスの実態に合わせて設定する（当所コンテンツを活用）

⑤本時のまとめ

第２時以降は①から始めることになる

授業づくりの活動カードを使ったプランシート（イメージ図）

Lesson(9)　第(3)時

導入	前時の復習 レストランの会話	
展開	新出語彙の習得	・p.38, 39 ※ピクチャーカードを使う
	活動1	・キーワードゲーム ・日本語表現との違い ・他国の有名な料理 ・トムヤムクン ・ナシゴレン
	Activity	・ペアワーク ※1人4品 ※代表発表
	活動2	・ヘルシーメニュー ※カロリー・バランス ※三色食品群
まとめ	本時のふりかえり	

授業を行うための教員のメモ

次ページのカードを切り取って活用する

※次ページの授業づくりのための活動カードを組み合わせることで１時間の授業が構成できます

授業づくりのための活動カード

新出語彙の習得	Let's Listen
新出表現の紹介 （気付かせる）	Let's Listen
新出表現の練習	Let's Chant
既習事項の復習	Let's Chant
活動1	Activity
活動2	Activity
Let's Play	Let's Sing

※このカードは切り取って前ページ（イメージ図）のように使用することができます
※アルファベット表記は『Hi, friends!』内コンテンツの名称です

明石市立貴崎小学校での授業記録を参考として掲載する。

外国語活動（Lesson 9）What would you like?【全４時間】

単元のねらい

・欲しいものについて丁寧に積極的に尋ねたり答えたりしようとする。
・欲しいものについての丁寧な表現のしかたや尋ね方に慣れ親しむ。
・世界の料理に興味をもち，欲しいものを尋ねたり言ったりする際、丁寧な表現があることに気付く。

第３時

本時のねらい：世界にはさまざまな料理があることを知り、丁寧な言い方で欲しいものを尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。

段階	内容	教師の発問・指示	備考
導入	1　前時の復習 ＊全体の前でレストランの絵を使って会話を復習する 【 What would you like? 】 【 I would like ~.】	○前時の復習をしましょう ○丁寧な表現とはどんな表現でしたか？ ○今から先生が、お客の役をやるので、誰か店員役をやってくれませんか？ *What would you like?　I would like ~. （全体の前でデモ）	①
展開	2　語彙の習得 ＊ゲームを活用した定着 （キーワードゲーム） ＊日本語との違い等の比較 （ペア or グループ活動） ＊世界の様々な料理を知る ≪キーワードゲーム≫ Ⅰ　ペアになり、向かい合って座る。 Ⅱ　２人の間に消しゴムを置き、キーワードになる単語を確認する。 Ⅲ　先生が言う単語をみんなで繰り返す。 Ⅳ　先生がキーワードを言ったときは、繰り返さずに消しゴムを素早く取る。	○新しい単語の発音練習をしよう （ピクチャーカードを活用して） 1　全体 *Repeat after me. 2　教科書を使ってペアで練習 *Make pairs and practice. ○キーワードゲームを使って単語を覚えよう ○新しい単語の中で、気づいたことはありませんか？班で話し合ってみよう （分け方の例） 1　日本語と同じ言い方 2　日本語と異なった言い方 ○教科書に載っていない世界各地の有名な料理についてふれる	②
	3　Activity 1 ＊各自で好きな昼食を考えさせる ＊【 What would you like for lunch? 】を導入 ＊ペアで教科書の絵を使って会話の練習をさせる ＊数グループに前で発表させる	○ペアやグループで自分の好きな昼食を選んでみよう 【What would you like? / I'd like ~.】 （メニューの中から一人４品選べる） *Let's make your own lunch menu. ○机間指導しながら、上手に活動できているペアやグループを選び、全体の前で発表させる	③・④
	4　ヘルシーメニューを考えよう ＊食育とのつながり （自分たちの給食を知る） ＊教科横断 （家庭科とのつながり：三色食品群）	○各自選んだ４品について、栄養の面から考えてみよう ＊カロリーやバランスは？ ＊既習事項の三色食品群をからめて考えさせても良い ○給食が栄養面でよく考えられていることについてふれる	④
まとめ	5　外国の給食を知ろう ＊ALT によるビデオ(No.2) ALT の小中高時代の給食について聞き取る	○ALT の学生時代の給食について、教えてもらおう *Watch the video carefully.	⑤

※備考欄の①～⑤は p.38 の授業プラン作成の手順を示す。

外国語活動（Lesson 9）What would you like?【全４時間】

第４時
本時のねらい：相手意識をもって、丁寧な言い方で欲しいものを尋ねたり答えたりしようとする。

段階	内容	教師の発問・指示	備考
導入	1　前時の復習 ＊ALT によるビデオ(No.2)を再度見せ、食について興味を持たせる	○ALT のビデオをもう一度見よう *Watch the video again. ＊どんな給食でしたか？ ＊自分たちの給食と比べての感想は？	①
展開	2　Activity 2 ＊Activity 2 を活用し、 (1) 食事作法について考えさせる (2) 世界の給食を知る ＊世界の食事作法の映像を見せる	○DVD を見て、どの国の給食か答えよう *Let's do activity 2. ○世界の食事作法を見てみよう （食事作法の映像や写真を準備） ＊気づいたことを発表しよう アメリカ…ナイフとフォーク 韓国…鉄の箸、膝を立てる等 インド…素手	③
	3　インターナショナルレストラン ＊表現・語彙の復習をする ＊４人グループを作り、客と店員による会話を練習させる ＊全体の前で実演させる ☆場面設定等 １教室内に数カ国(*1)のレストランを設置 ２店員と客に分かれ、 【 What would you like? 】 【 I would like ～. 】 の 表現を使ってやりとりをする ３各レストランには各国オリジナルの料理があり、客はその国の食事作法を使って食べる (*1) アメリカ・イタリア・カナダ・インド・中国・日本等 ※要：事前にメニュー作成 （例）アメリカ：ハンバーガー店	○インターナショナルレストランを体験してみよう *Let's role play. ルール：店員との会話は英語 その国の食事作法で食べる 準備物：各国レストランのメニュー ～練習～ 1　どの国のレストランかを決定 2　店員役２名、客役２名決める 3　接客練習（別紙） ～レストラン開店～ 1　客役が別の班のレストランに行く 2　注文・接客 3　別のレストランへ（１組→２店へ） 会話の幅を広げる表現として、以下のような表現を紹介してもよい。 ＊いらっしゃいませ →　May I help you? ＊おすすめは？ →　What do you recommend today? など	④
まとめ	4　世界の料理や食事作法に興味を持ち、欲しいものを尋ねたり、言ったりする際、丁寧な表現があることを押さえる	○丁寧な表現（日本語の敬語と比較） ＊相手意識をもつた言葉の発信 What would you like? I would like ～. ○食文化について ＊外国の料理、食事作法について	⑤